

2021年1月7日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 フ ル ッ タ フ ル ッ タ  
代 表 者 名 代表取締役社長執行役員 CEO 長 澤 誠  
(コード番号：2586 東証マザーズ)  
問 合 せ 先 取締役執行役員 徳 島 一 孝  
TEL. 03-6272-3190

カナダのトロント大学と「アサイーが新型コロナウイルス (COVID-19) 起因の  
NLRP3 誘発性炎症を抑制する効果」に関する実証実験を行う契約締結のお知らせ

株式会社フルッタフルッタ（本社：東京都千代田区、代表取締役 CEO：長澤 誠）は、本日開催の取締役会において、カナダのトロント大学（以下「トロント大学」という）が、現在カナダ、ブラジルで実施している、新型コロナウイルス（COVID-19）（以下「新型コロナ」という）患者に対する NLRP3 インフラマソーム誘発性炎症（注1）の重症化を抑制する効果の臨床研究に、当社アサイー原料を使用するための実証実験を開始することに合意し、アサイーが NLRP3 インフラマソーム誘発性炎症の悪化を抑制する効果の研究に参画することを決議しましたので、お知らせいたします。

当社はこれまで、アサイーの造血機能性の研究と、研究結果の発表を行ってまいりましたが、この度の実証実験の開始は、造血機能性と共に購入動機に繋がる新たなエビデンスの獲得と、アサイーの認知度の向上を目的としています。

1. 経緯

トロント大学の、マイケル ファルコ教授（University Health Network-Toronto General Hospital Clinician Scientist Dr. Michael Farkouh）と、アナ アンドレアザ准教授（Department of Pharmacology & Toxicology Department of Psychiatry Centre for Addiction and Mental Health Dr. Ana Andrezza）は、2020年5月から、抗炎症作用を持つ可能性のある安全で天然のアサイーが、新型コロナ患者への治療選択肢となり得るかを臨床研究しており、当社としても強い関心を持って着目してまいりました。

新型コロナにおけるこれまでの研究では、ウイルスが細胞に感染すると、細胞内のタンパク質の複合体である NLRP3 インフラマソーム（注2）が活性化して炎症反応を引き起こすことが明らかになっています。アサイーの有効成分が、この NLRP3 インフラマソームレベルを下げ、炎症性サイトカイン（注3）を減少させることが、新型コロナの治

療方法として期待されています。今回の研究では、当社が保有するアサイー原料が NLRP3 誘発性炎症の悪化を抑制する能力を実証テストします。

注1：体内にて NLRP3 インフラマソーム経路で起こしている炎症です。

注2：タンパク質の複合体であり、細胞内に存在し、ウイルスや細菌、環境中の刺激物（シリカ、アスベストなど）によって活性化します。これにより炎症性サイトカインが細胞外へ放出されて、発熱や感染局所での炎症反応が起こります。

注3：炎症性サイトカインとは、免疫系細胞から分泌されるタンパク質で炎症の原因物質と考えられています。

## 2. 今後のトロント大学との取り組みの見通し

世界的に新型コロナウイルスが蔓延する中、世界中でワクチンの開発が急ピッチで進んでおります。しかしながら、ワクチン摂取による副作用の心配もあり、日常の食生活の見直しで免疫力や体力を維持したいという要望が強まっています。

実証実験は、2021年1月25日より開始され、試験に伴う当社アサイー原料の提供と、実証実験の為の一部資金の提供を行います。

この度の本契約締結により、当社原料の有用性を実証確認の上、今後トロント大学は当社の原料を使用し、当社は共同研究者として今後の臨床テストに参画していく予定です。

## 3. 業績への影響

現時点では業績への具体的な影響は不明であり、判明次第お知らせいたします。

以上